

令和6年度第1回福祉のまちづくり研究所企画運営委員会調査研究部会【事後評価】

No.	研究課題名	コメント
1	令和5年度終了研究課題 高齢者や障害者向けのモビリティ技術開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果は日常の生活はもとより、旅行、住み替えなど、移動時の現地情報の検討と共に災害時の避難経路、暮らしに根付いた情報提供サービスの向上に発展することが期待できる。</li> <li>・アクセシビリティマップ「なび坂」は、事業化に向けて企業と連携した取組が進んでおり、社会実装が期待できる。</li> <li>・今後の継続的な情報収集により「なび坂」の精度向上に努めてもらいたい。</li> <li>・ICT技術やAI技術は進展が早い為、常に最新の情報を踏まえた継続的な検討も望まれる。</li> <li>・ぜひ無料アプリとしてリリースし、広く世の中に普及することを期待したい。開発資金を集めるため、クラウドファンディング等を利用するとよいかもしれない。</li> <li>・次年度より事後評価実施時に規定の適用を遵守するために事後評価シートに新たに“追跡調査必要性の有無”の欄を設けて評価委員の意見を確認する機会を設けるべき。</li> </ul>
2	令和5年度終了研究課題 モーションパラメータを活用したAI技術開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モーションパラメータの計測評価技術と、AIを活用した医療・介護サービスの提案に繋げる試みは、独創性があり高く評価できる。</li> <li>・非常に有用性の高い、また新規性のある時宜を得た研究であり、本研究所の長所を生かした研究活動を遂行し、着実に成果を上げている。</li> <li>・今後、飛躍的に進展するAI技術の積極的な活用が望まれる。</li> <li>・ポーズ推定部分が2次元座標のように見えたが、もしそうならMediaPipeを導入し3次元化を実現すると有効性の向上が見込まれる。</li> <li>・AIによるスマート計測や健康・運動の評価システムを開発するための諸要件について運動評価やホーム改善等のトレーニングや各種支援機器や支援用具の開発にさらなる関係分野を超えた共同研究や開発が期待される。</li> <li>・次年度より事後評価実施時に規定の適用を遵守するために事後評価シートに新たに“追跡調査必要性の有無”の欄を設けて評価委員の意見を確認する機会を設けるべき。</li> </ul>